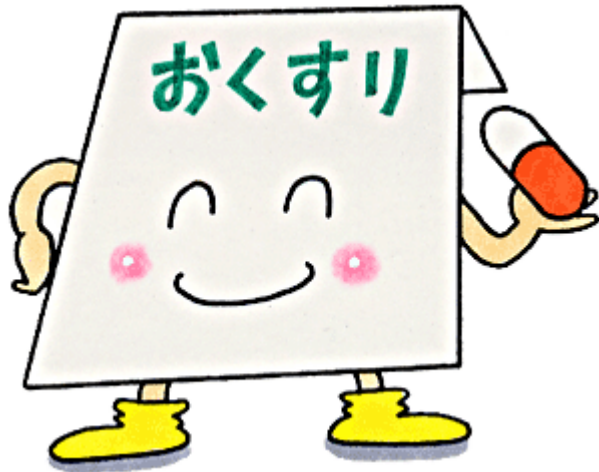


基本的な薬の飲み方②

【腎機能低下時に注意が必要な薬
について】



本日の内容

1. CKDシールについて
2. 腎臓シックデイとは



腎機能低下時に注意したいこと

- ◆ 高度に腎機能が低下すると、



腎機能低下に合わせて減量が必要、
または使用できなくなる薬があります。

- ◆ 薬自体が、さらに腎機能を悪化させるものもあります。



薬のことで、何か疑問があれば、主治医や
薬剤師にお尋ねください。

CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

➤ CKDシールって何？

あなたの腎臓の状態を知らせてくれるシールです。お薬手帳にCKDシールをはることで、あなたの腎臓のことを知らない病院や薬局に、あなたの腎臓の状態を知ってもらうことができます。



CKDシールをお薬手帳に
はりましょう

CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

➤ どんな患者さんに貼っているの？

腎臓の機能が落ちてきて、医師がお薬の量を調節したほうが良いと判断したらはっています。具体的には、血液検査で、eGFRが30未満を基準としています。

➤ CKDシールをはると何がいいの？

医師や薬剤師がCKDシールを確認することで、腎臓の機能に合わせてお薬の調節がしやすくなり、あなたの腎臓を守ることができます。

CKDシールをはってあなたの腎臓を守りましょう

➤ どんな風に使うの？

医師の診察のときに、患者さんの了承を得てはらせていただきます。

病院を受診される時や、薬局に処方箋を出す時は、必ず、お薬手帳とCKDシールを見せるようにしましょう。

CKDシールのない方は、可能なら自分の腎機能がわかるデータを提示しましょう。



本日の内容

1. CKDシールについて
2. 腎臓シックデイとは

腎臓シックデイとは

- ❖ 発熱、下痢、嘔吐、発汗などの脱水になりやすい体調のこと



- ❖ 脱水状態になると、血圧が下がったり、腎臓への血のめぐりが悪くなり、急激に腎機能が悪化することがあります

この後は、シックデイに注意が必要な薬についてのお話です

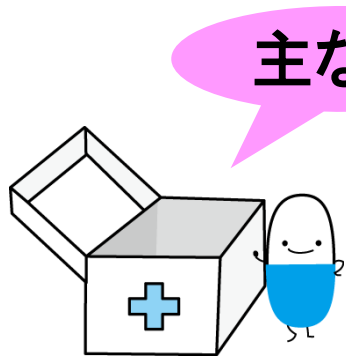
腎臓シックデイ時に対応が 推奨されている薬剤

- ✓ SGLT2阻害剤
- ✓ 降圧剤
- ✓ 利尿剤
- ✓ 解熱鎮痛剤 (NSAIDs)
- ✓ 活性型ビタミンD製剤

✓ SGLT2阻害薬

尿への糖分排泄を促進する糖尿病治療の薬剤
蛋白尿やアルブミン尿を減らす作用が認められ、
腎臓の長期予後を改善する目的で用いられる

- ・利尿作用により、より脱水を引き起こしやすくなる
- ・尿中に糖分が排泄されすぎた場合、次のエネルギー源として、脂肪分解が活発となり、ケトアシドーシスを引き起こしやすくなる



主な薬

- ・フォシーガ錠[®]
- ・カナグル錠[®]
- ・ジャディアンス錠[®]

など

✓ 降圧剤

- ・水分や食事が十分とれない、下痢などの症状が重なると、体内の水分量や塩分量が低下し、普段よりも血圧が下がりすぎることがあります
- ・血圧低下により、腎臓への血流量も低下するリスクが高まります

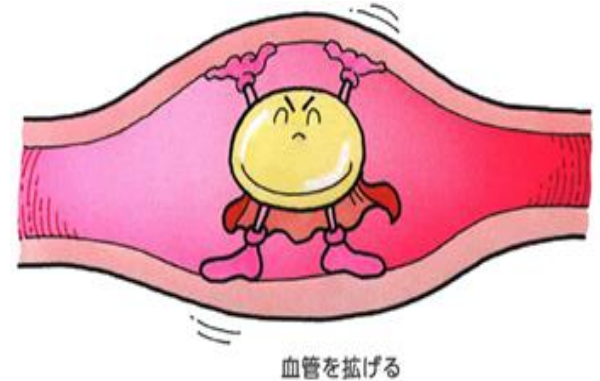
主治医と適切な血圧について普段から相談しておく

シックデイの間はこまめに血圧を測定し、下がりすぎたら減量や中止の指示に従いましょう

次に、降圧剤の種類についてお話します。

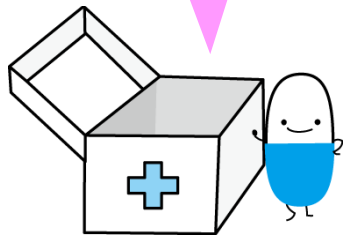
主な降圧剤①

➤ カルシウム (Ca)拮抗薬



血管を拡げて血圧を下げる薬

主な薬



- ・アダラートCR錠® (後発:ニフェジピンCR錠)
- ・アテック錠® (後発:シルニジピン錠)
- ・ノルバスク錠® (後発:アムロジピン錠)
- ・カルブロック錠® (後発:アゼルニジピン錠)
- ・コニール錠® (後発:ベニジピン錠)

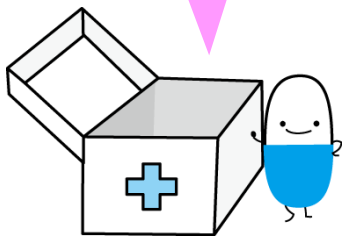
主な降圧剤②

- レニンアンギオテンシン系 (RA) 阻害剤
- ミネラルコルチコイド受容体阻害剤 (MRA)

血圧を上昇させるホルモン※ の作用を阻害する薬

ミネラルコルチコイド受容体阻害剤 (MRA)

主な薬



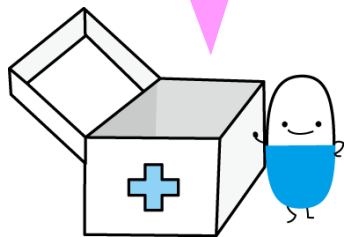
- ・アルダクトンA錠® (後発:スピロノラクトン錠)
- ・セララ錠® (後発:エプレノン錠)
- ・ミネブロOD錠®
- ・ケレンディア錠®

※ アンジオテンシンⅡや、アルドステロン を指します。

レニンアンギオテンシン系(RA)阻害剤

- ・エースコール錠[®]（後発：テモカプリル錠）
- ・カプトリル錠[®]（後発：カプトプリル錠）
- ・コバシル錠[®]（後発：ペリンドプリル錠）
- ・セタプリル錠[®]（後発：アラセプリル錠）
- ・タナトリル錠[®]（後発：イミダプリル錠）
- ・レニベース錠[®]（後発：エナラプリル錠）
- ・ロンゲス錠[®]（後発：リシノプリル錠）
- ・アバプロ錠[®]（後発：イルベサルタン錠）
- ・アジルバ錠[®]（後発：アジルサルタン錠）
- ・オルメテック錠[®]（後発：オルメサルタン錠）
- ・ディオバン錠[®]（後発：バルサルタン錠）
- ・ニューロタン錠[®]（後発：ロサルタン錠）
- ・ブロプレス錠[®]（後発：カンデサルタン錠）
- ・ミカルディス錠[®]（後発：テルミサルタン錠）

主な薬



主な降圧剤③

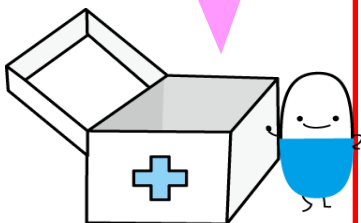


➤ 利尿剤

・水分や食事摂取不良、下痢の場合は、利尿剤によってさらに脱水が助長され、腎機能が悪化するリスクがあります

主な薬

- ・サムスカOD錠[®]（後発：トルバプタンOD錠）
- ・ダイアート錠[®]（後発：アゾセמיד錠）
- ・ナトリックス錠[®]
- ・フルイトラン錠[®]（後発：トリクロールメチアジド錠）
- ・ラシックス錠[®]（後発：フロセמיד錠）

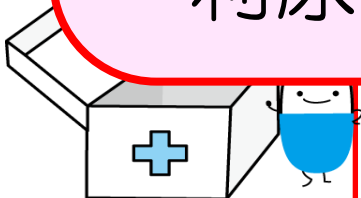


主な降圧剤③



➤ 利尿剤

- 脱水の際は、体重が減少する
→ 普段から主治医と目標体重を設定する
- こまめに体重を測定し、脱水を疑うときは利尿剤の内服を減量・中止する



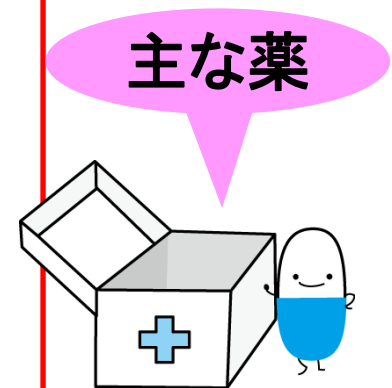
- ナトリックス錠®
- フルイラン錠® (後発: トリクロルメチアジド錠)
- ラシックス錠® (後発: フロセミド錠)

✓ 解熱鎮痛薬 (NSAIDs)

・輸入細動脈の拡張を阻害することで、腎臓への血流が低下し、急性腎障害のリスクを増大させる

- ・ボルタレン錠[®] (後発: ジクロフェナク錠)
- ・セレコックス錠[®] (後発: セレコキシブ錠)
- ・ロキソニン錠[®] (後発: ロキソプロフェン錠)
- ・ロルカム錠[®]

など

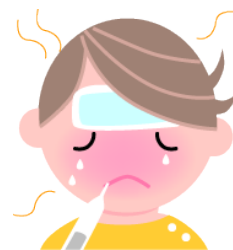


痛み止めや熱さましのお薬を連用



腎機能悪化の危険！！

発熱



腰痛



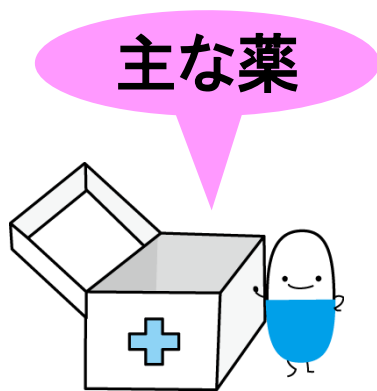
頭痛

解熱鎮痛剤には、非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) とアセトアミノフェン(カロナール®)がありますが、アセトアミノフェンには腎機能を悪化させる作用はありません。

✓ 活性型ビタミンD製剤

小腸でのカルシウム吸収を助け、骨がもろくなるのを防ぐ作用があります

・高Ca血症により脱水を増悪させ、急性腎障害のリスクを上昇させる



- ・アルファロール®
（後発：アルファカルシドール）
- ・エディロール®
（後発：エルデカルシトール）
- ・ロカルトロール®

など

！大原則！

体調不良で薬をどうするか**困ったら、**
主治医に相談しましょう。

むやみに自己調節しすぎた場合、かえって腎機能が悪化する可能性があります。

体調が悪い際のお薬の対応について、
事前に主治医と相談しておきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

